

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|--|------------------------------------|----|------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 1583 号 | 氏名 | 金本 正 |
| 学位審査委員 | 主 査 川上 純 副 査 前村 浩二 副 査 西野 友哉 | | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、急性期脳梗塞患者頭部 MRI における susceptibility-weighted imaging (SWI) で血管閉塞部の susceptibility vessel sign (SVS) に着目し、SVS と脳血管内手術後の再開通を検討したものであり、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 長崎大学病院に入院した前方循環領域の急性期脳梗塞患者の内、脳血管内手術前に頭部 MRI における SWI で SVS が評価された患者を対象とした。脳血管内治療終了時の良好な再開通 (successful recanalization: SR)、および初回の治療手技で良好な再開通が得られる first pass reperfusion (FPR) を予測する因子を SVS を含めて解析したものであり、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、100 例が登録され、SR と FPR が得られたのは、それぞれ 77 例と 34 例であった。多変量ロジスティック回帰分析で、SR では SVS 幅は SR に関連し、予測する SVS 幅の最適なカットオフ値は 4.2 mm であった。FPR では SVS 幅は FPR に関連し、予測する SVS 幅の最適なカットオフ値は 4.0 mm であった。以上より本研究は、急性期脳梗塞患者頭部 MRI における SVS と脳血管内手術後の再開通に関する研究として大いに期待される。</p> <p>以上のように本論文は急性期脳梗塞患者頭部 MRI における SVS と脳血管内手術後の再開通に研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (医学) の学位に値するものと判断した。</p> | | | |